家　　庭

1　学習指導の工夫・改善

(1) 各教科等における探究的な学び

新学習指導要領では、学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育成するために、教科等横断的な学習を充実させることが求められている。

各教科においては、「探究」の名称が付されていない科目等についても、それぞれの内容項目に応じて、探究的な活動は取り入れられるべきものである。各教科における探究的な学びには、探究のプロセス全体を通して資質・能力を育成するだけでなく、「整理・分析」や「まとめ・表現」など探究のプロセスの一部に焦点を当てることも考えられる。この際、「考えるための技法」を効果的に活用することが重要である。

専門教科「家庭」においては、探究的な学びを行う際に、家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、専門的な知識と技術などを相互に関連付けてより深く理解させるとともに、地域や社会の生活の中から問題を見いだして解決策を構想し、計画を立案し、実践、評価、改善して新たな問題解決に向かう過程を重視した実践的・体験的な学習活動の充実を図る必要がある。

また、地域や産業界等との連携・交流を通じた実践的な学習活動や就業体験活動を積極的に取り入れるとともに、社会人講師を積極的に活用するなどの工夫に努めることが求められている。

(2) 教科等横断的な視点を意識した年間指導計画の作成

指導に当たっては、科目の目標の達成を目指すとともに、教科等横断的な視点を踏まえ、公民科、数学科、理科及び保健体育科等との関連を図ることが求められている。

また、生活の科学的な理解を深め、生活の自立に向けて主体的に活用できる技能の習得を図るために、実践的・体験的な学習活動を重視し、問題解決的な学習を一層充実するよう、年間指導計画を作成する必要がある。

次の表は、専門科目「生活と福祉」の年間指導計画の例である。

教科名	専門家庭	科目名	生活と福祉
科目の目標	家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、高齢者の自立生活支援と福祉の充実を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。		
履修学年	２年	単位数	２単位

月	単元	学習内容	評価規準	評価方法	関連
4	○健康と生活	・健康の概念 ・ライフステージと健康管理	【知】健康の概念とライフステージごとの健康管理について理解している。 【思】ライフステージごとの健康問題を踏まえ、生活習慣病の予防など高齢期に至るまでの課題を発見し、解決に向けて考察できる。 【主】高齢者の生活の質の向上と自立生活支援に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	【知・思】 ワークシート ポートフォリオ 【主】 行動観察	保健◆

保健の「生涯を通じる健康」の学習内容と関連

5	○高齢者の自立生活支援と介護Ⅰ	・高齢者の心身の特徴 ・高齢者介護の基礎	【知】加齢に伴う心身の変化を踏まえ、高齢者の自己決定に基づく自立生活について理解している。 【思】高齢者が地域において自立生活を送るための課題を発見し、その解決に向けて考察できる。 【主】高齢者の自立生活支援と介護について自ら学び、高齢者の生活の質の向上と自立生活支援に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	【知・思】 ワークシート ポートフォリオ 【主】 行動観察 実習日誌 学習支援ソフトを利用 ICT端末の活用	
6	○高齢者の自立生活支援と介護Ⅱ	・人間の尊厳と自立生活支援の考え方	【知】高齢期の心身の特徴、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解している。 【思】高齢者の心身の状況に応じた適切な支援の方法や関わり方について、考察できる。 【主】高齢者との関わりと福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり改善したりして自己や家庭、地域の生活の充実向上を図るために取り組んでいる。	総探で既習の「考えるための技法」の活用 【知・思】 ワークシート ポートフォリオ 【主】 行動観察 実習日誌	総探★
7	○健康と生活 ○生活支援サービスと介護の実習	・家庭看護の基礎 ・生活支援サービスの実習 ・介護の実習 ・レクリエーションの実習	【知】応急手当の要点を理解し、手当を行う技術が身に付いている。 【思】高齢者の生活の質の向上と自立生活支援について考察し、工夫することができる。 【主】福祉施設等の見学や実習において、身に付けた知識や技術を発揮しようと工夫している。	【知・思】 ワークシート ポートフォリオ 【主】 行動観察 実習日誌	総探★

2　新学習指導要領における指導と評価の計画

(1) 生活と福祉「(2) 高齢者の自立生活支援と介護」の計画

ア　単元の目標

(ｱ) 加齢に伴う心身の変化を踏まえ、高齢者の自己決定に基づく自立生活について理解する。

(ｲ) 高齢者が地域において自立生活を送るための課題を発見し、その解決に向けて考察する。

(ｳ) 高齢者の自立生活支援と介護について自ら学び、高齢者の生活の質の向上と自立生活支援に主体的かつ協働的に取り組む。

イ　単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
加齢に伴う心身の変化を踏まえ、高齢者の自己決定に基づく自立生活について理解するとともに、生活支援に関する基礎的な技術を身に付けている。	高齢者が地域において自立生活を送るための課題を発見し、その解決に向けて考察し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	高齢者の自立生活支援と介護について自ら学び、高齢者の生活の質の向上と自立生活支援に主体的かつ協働的に取り組み、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

ウ　単元の指導と評価の計画（10時間）

時間	ねらい、学習活動	知	思	態
１～４ 【４時間】 高齢者の心身の特徴	【ねらい】 加齢に伴って変化する、高齢者の身体的・心理的・社会的特徴や加齢と病気や諸症状との関係について理解する。 事故の防止の重要性、認知症への理解と対応、高齢者の病気の特徴などについて考察する。 【学習活動】 講話等を通して、加齢により生じる様々な変化や病気の諸症状を理解した上で、事故防止の重要性や対応の仕方について考える。 ICT端末を活用したポートフォリオを用いて、毎時間の学習内容とその過程（生徒の評価）を記録する。	○	○	
５～８ 【４時間】 高齢者介護の基礎	【ねらい】 介護予防の考え方に基づいた見守りや適切な支援が大切であること、介護が長期化したときの家族の支援や福祉サービスの活用などによる長期の介護体制の確立の大切さについて理解するとともに、麻痺、認知症、視聴覚障害などがある高齢者の介護や、生活の中でのリハビリテーションの要点について具体的な事例を通して考察する。 【学習活動】 高齢者の見守りや適切な支援について、ICT端末を活用したグループワークを通して対応方法を考える。		○	○
９～10 【２時間】 人間の尊厳と自立生活支援の考え	【ねらい】 高齢者自身の希望が尊重され、その人らしい自立した生活を支援することの重要さを意識し、ノーマライゼーション、ユニバーサルデザインなど、社会福祉の基本的な考え方を踏まえ、高齢者の生活の質の向上と自立生活支援について考察する。 【学習活動】 認知症に関する講話や、見守り声かけ体験会を通して学んだことをICT端末を活用したポートフォリオを用いて、単元のまとめを行う。		○	○

総合的な探究の時間で既習の思考ツール「考えるための技法」を活用

単元末の振り返りシートで見取る。

エ　学習指導案「認知症の理解と対応方法」（４・５時間目/10時間中）

（ｱ）目標

・加齢に伴って変化する高齢者の身体的・心理的・社会的特徴や加齢と病気や諸症状との関係について理解する。
・認知症への理解を深め、対応方法について考察する。

（ｲ）展開

過程	学習内容	生徒の学習活動	評価	指導上の留意点
導入	・学習内容の確認 ・講師紹介 ※　認知症サポーター養成講座も兼ねる。	・学習内容及びねらいの確認する。		・資料、ワークシートを配付し、理解を促す。
展開 (1)	①高齢者の身体的・心理的・社会的特徴 ②加齢と病気や諸症状との関係（認知症と物忘れの違い）	・介護施設職員による高齢者についての講話を受講する。	【知識・技術】 ・高齢者の特徴を理解している。	・要点の把握に向けて、ワークシートの記載を事前連絡する。

	③認知症の対応方法、ヘルプカードについて ※体験学習の説明 	・ワークシートに高齢者の特徴、認知症と物忘れの違いなどについて要点等を記載する。 ・ 認知症の対応方法等、体験学習全般を理解する。	・認知症と物忘れの違いを理解している。 【思考・判断・表現】 ・認知症の対応方法を理解し、適切に対応する方法について考察することができる。	★ICT端末の活用 学習支援ソフトを用い、発言が苦手な生徒の意見も反映できるようにする。
展開(2)	〈体験学習〉 あったか見守り声かけ体験会 	・グループ（３～４名）で対象者への声かけ体験を行う。(地域内を捜索し、対象者に声をかける) ・ヘルプカードの効果を体験する。	【知識・技術】 ・認知症の対応方法を理解し、適切な接し方を身に付けている。	・生徒の体力等を考慮し、負荷や方法を工夫する。 ・ヘルプカードの役割や効果に気付かせる。
まとめ	・学習内容の振り返りと次時の確認	・自己評価 ・ワークシートに本日の学習内容をまとめて記入する。	【思考・判断・表現】 ・認知症の対応方法について、考察できている。 ・高齢者の生活の質を重視する観点をもつことの重要性について、考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・今後の認知症の対策について主体的に取り組もうとしている。	★総探との関連 総合的な探究の時間における「地域理解」と関連付け、他者を尊重し、協力・協働しながら課題を解決する能力を図る。

オ　単元振り返りシート

生活と福祉　振り返りシート　　**生活と福祉「(２)高齢者の自立生活支援と介護」**

２年　　組氏名

学習前課題【加齢に伴う心身の変化と自立生活支援の考え方について記述しましょう】

１時間目：授業名「高齢者の心身の特徴」
今回の授業で最も大切だと思うこと
今回の授業での不明点

２・３時間目：授業名「認知症の理解と対応方法」
今回の授業で最も大切だと思うこと
今回の授業での不明点

４・５時間目：授業名「高齢者介護の基礎『見守りや適切な支援』
今回の授業で最も大切だと思うこと
今回の授業での不明点

６・７時間目：授業名「長期の介護体制の確立」
今回の授業で最も大切だと思うこと
今回の授業での不明点

８時間目：授業名「リハビリテーション」
今回の授業で最も大切だと思うこと
今回の授業での不明点

９・10時間目：授業名「その人らしい自立した生活」
今回の授業で最も大切だと思うこと
今回の授業での不明点

学習後課題【加齢に伴う心身の変化と自立生活支援の考え方について記述しましょう】

★振り返り 学習を通じて、考えたこと、感想	課題に対する評価ルーブリック		自己評価
	A	評価に対して、根拠・理由をいくつかに示して自分の考えを相手にわかりやすく書くことができた。	
	B	評価に対して、根拠・理由をいくつかに示して自分の考えを相手にわかりやすく書くことができた。	
	C	課題に対して、自分の考えを書くことができなかった。	他者評価
学習を通じて生じた疑問・質問（あれば記入）			

カ　評価問題等

1　自己評価

講話・体験会を振り返り、あてはまる評価に〇をつけよう（A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった）

評価項目	A	B	C	D
（1）　講話を聞いて、高齢者の身体的・心理的・社会的特徴について理解することはできたか				
（2）　認知症の高齢者への声かけについて配慮事項を理解し、実践することができたか				

2　体験学習を通して、次の内容についてあなたの考えをレポートにまとめましょう。

【内容】（1）認知症の対応について、わかったことや気付いたこと。

（2）高齢者の生活を支える際に重要な視点、ヘルプカードの効果についてわかったこと。また、今後に取りみたいこと。

(1)
(2)

【2における評価基準】

	A	B	C
(1)	認知症の対応について、自分の視点や考えを交えて記載されている。	認知症の対応について、講話の内容及び自分の感想が記載されている。	認知症の対応等、講話の内容が記載されている。
(2)	高齢者の生活を支える際に重要な視点やヘルプカードの効果について、生活の質の向上の視点から具体的に記載されるとともに、今後の取組が述べられている。	高齢者の生活を支える際に重要な視点やヘルプカードの効果等が、具体的に記載されるとともに、今後の取組が述べられている。	高齢者の生活を支える際に重要な視点やヘルプカードの効果等のいずれかのみ記載されている。

キ　学習活動における生徒の姿と評価の結果

【評価規準「主体的に学習に取り組む態度」】

地域住民、高齢者相談支援センター職員等と協働して高齢者が安心して暮らすことができる地域づくりに取り組もうとしている。

【評価Ａの記述の例】

評価Bとの差の部分に下線

(1) 加齢による物忘れと認知症の症状による記憶障害の違いについて学びました。認知症は誰でもなりうることや、周囲の人による認知症の人への誤解があることを知りました。捜索訓練をグループのメンバー、地域の方々と一緒に行ったとき、はじめは不安でしたが、高齢者支援センターの職員に伺ったポイントを意識しながら実践することができました。相手に目線を合わせてやさしい口調で接するなどの対応ポイントは、認知症の方に限らず、どのような相手とのやりとりでも通じる部分だと思います。認知症だからと色眼鏡で見るのではなく、相手も同じ地域に住む仲間であることを忘れずに、関わっていくことが大切だと気付き、地域住民の認知症への理解を高めるために、私たちにできることを考えていきたいと思いました。

(2) 捜索訓練の時に対象者がヘルプカードを持っていると、氏名などの個人情報がすぐにわかり、職員の方に情報を伝えることができたので、特に命に関わるような緊急時にすぐに使えるツールだと思いました。ヘルプカードによって対象者の要望等を相手に正確に伝えることができるので高齢者に限らず、どんな方でも安心してやりたいことや外出することができるのではないかと感じました。このことは、相手の気持ちを尊重した介護に通じるものであるとともに、

生活の質を高める一つの手段にもなると感じました。誰もが制限なく暮らせる街になるように、来年は福祉ゼミに入って、より効果的なヘルプカードの活用方法を考えていきたいです。

〈評価Ａと判断した理由〉

この生徒は、講座や体験活動を通して、認知症になっても安心して暮らすことができる地域をつくるには、地域住民の認知症に対する知識を高める必要性に気付き記している。また、ヘルプカードの役割や効果にも着目し、普及活動の必要性について具体的に考察していることが伺える。さらに、地域社会に参画しようとするとともに、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしていることから評価規準に示す資質・能力が育成されていると考える。

【評価Ｂの記述の例】

評価Ｃとの差の部分に下線

(1) 養成講座では、多くの地域の方と協力して活動できてよかったです。高齢者相談支援センターの職員の方から、認知症の特徴や対応方法を学んだので、対象者の目線に合わせてゆっくりと話すように心掛けてみると、職員の方から、声のかけ方が上手だと言っていただき、嬉しかったです。困っている人を見かけたら、積極的に声をかけて助けようと思いました。

(2) 今回の講話を聞いて、ヘルプカードという言葉を初めて知りました。このカードは、困っている本人が助かるだけでなく、声を掛けたサポート側も必要な情報を得られるので助かると思いました。自分の祖父母にも紹介してみようと思います。

〈評価Ｂと判断した理由〉

この生徒は、自身の対応が模範的であることを評価されたことで、自己肯定感を高め、さらに積極的に活動に取り組む姿勢が芽生えたことが伺える。また、今回得た知識や技能を日常生活でも生かしていきたいという意欲が感じられることから、評価規準に示す資質・能力が育成されていると考える。

【評価Ｃの記述の例】

評価Ｃは感想のみにとどまっている。

(1) 今回の講座では、大切なことをたくさん学びました。捜索訓練で認知症役の方と話すのは緊張して上手くできませんでしたが、とてもいい勉強になったと思います。私が住んでいる町は高齢者が多いので、今日一日学んだことを将来に活かしていきたいと思います。

(2) ヘルプカードという言葉を初めて聞きました。高齢者に一つ一つ聞き取りをして作成するのは、大変だと思いますがこのカードによって助かる人がいるならとてもよいものだと思いました。

〈評価Ｃと判断した理由〉

この生徒は、自身の感想のみを記述している。生徒自身の学びに繋がったことは読み取れるが、講話の内容や介護に重要な視点、ヘルプカードの効果に関する具体的な記述が見られないことから、評価規準に示す資質・能力の育成について不十分だと考える。